

2040 年を見据えた対応方針〔詳細版〕

1. 地域・病院の医療需要の状況

(1) 主な診療圏域における人口推移 ※ () 内は 75 歳以上人口

主な診療圏域（市町村）	2015 年	2025 年	2040 年
苫小牧市、白老町	190,477 人 (24,000 人)	180,763 人 (34,335 人)	157,263 人 (36,248 人)
登別市、室蘭市	138,189 人 (23,071 人)	119,100 人 (28,039 人)	89,535 人 (22,468 人)
合 計	328,666 人 (47,071 人)	299,863 人 (62,374 人)	246,798 人 (58,716 人)

(2) 主要診療科（疾患）の入院患者数（1 日平均） ※2025 年度、2040 年度は見込み

診療科（疾患）	2017 年度	2025 年度	2040 年度
内科	23.0	31.5※ ¹	27.8※ ¹

※1 2025 年以降の入院患者数推計については病院建て替え後を想定し、改築基本構想（H28.5 月）で示した当時の基本的な考え方である。以後、社人研推計の改定や地域環境の変化などを踏まえ、診療圏域において役割を担っていくため、「白老町立国保病院改築の方向性」（R1.8.23）を踏まえた入院患者数推計の見直しを図っている。

2. 将来に向けた取組

(1) 2040 年に担うべき役割・機能

2040 年に担うべき役割・機能 ／周辺の医療機関との役割分担・ 連携の在り方	2025 年に向けた取組 ／今後検討を要する課題	2040 年に向けた取組 ／今後検討を要する課題
<p>【自院の役割・機能】</p> <p>2040 年の本町の人口見通しでは、75 歳以上後期高齢者人口は緩やかに減少するものの、90 歳以上人口はピークを迎える見通しにある。その為、今後、特に増加傾向にある後期高齢者医療被保険者の受診動向を踏まえると、地元で身近な町内医療機関の存在が、生活圏域である苫小牧市や登別市への移動困難な高齢者や障がい者の拠り所になっている現状があることから、白老町立病院においては 2 次医療機関や専門病院と連携を図りながら、比較的軽度な急性期患者の受入れと共に、東胆振医療圏域において不足する見通しのある回復期患者についても、今後更に受入れを担っていくべきとの考えにある。</p>	<p>【自院の取組】</p> <p>本町のみならず東胆振医療圏域においても生産年齢人口が減少する見通しがあることから、医師や医療スタッフの安定確保に向け、働きやすい環境整備に取り組む必要がある。</p> <p>東胆振医療圏域において不足する見通しのある回復期患者についても、今後更に受入れを担っていくべきとの考えにある。</p>	<p>【自院の取組】</p> <p>本町のみならず東胆振医療圏域においても生産年齢人口が減少する見通しがあることから、医師や医療スタッフの安定確保に向け、働きやすい環境整備に取り組む必要がある。</p> <p>なお、2040 年には本町の 90 歳以上人口が 2020 年の約 2 倍に達し、かつピークを迎える見通しがあることから、将来の人口状況に応じて適切な医療・介護福祉の提供基盤を保持していく必要があると考える。</p> <p>また、年少人口の減少が特に顕著な見通しがあることから、高齢者から小児まで対応できる総合診療体制の確保が課題にある。</p>

【役割分担・連携】 ※医療機関名及び内容 上記取組み方針を踏まえ、患者の状態に応じて近隣の２次医療機関や専門病院への紹介や、術後の回復期受入れの役割を担っていく必要がある。 また、町民が身近な町内で専門医療を受けられるよう、今後も引き続き近隣医療機関からの医師派遣による医療連携を図っていく必要があるとの考えにある。	【他の医療機関とともに行う取組】 ２次医療機関への紹介や術後の回復期受入れなど、地域連携の強化を図る必要がある。	【他の医療機関とともに行う取組】 ２次医療機関への紹介や術後の回復期受入れなど、地域連携の強化を図る必要がある。

(２) 病床規模 ※【】は【入院基本料／平均在棟日数】

	2018 (H30) 病床機能報告	2025 年	2040 年
総数（稼働病床数）	50 床	43 床※ ¹	43 床※ ¹
高度急性期・急性期	50 床 【急性期一般 5／17.6 日】	43 床※ ¹ 【急性期一般 5】※ ²	43 床※ ¹ 【急性期一般 5】※ ²
回復期	—		
慢性期	—	—	—
(病床稼働率)	(36.1%)	—	—
休床数	8 床	—	—

※¹ 2025 年以降の病床数については病院建て替え後を想定し、改築基本構想（H28.5 月）で示した当時の基本的な考え方である。以後、社人研推計の改定や地域環境の変化、将来見通しの精査などを踏まえ、地域で役割を果たしていくために必要な病床数を検討している。

※² 病床機能については、診療圏域における回復期病床不足の見通しを踏まえ、上記（１）の役割・機能を十分果たしていけるよう、「白老町立国保病院改築の方向性」（R1.8.23）を踏まえて一部回復期病床への転換を考えている。

(３) 医療従事者（常勤換算）

	2018 (H30)	2040 年
医師数 (診療科：人数／機能)	内科： 4.3 人／急性期、回復期機能 外科： 1 人／同上 小児科：0.7 人／急性期の機能	内科： 4.3 人／急性期、回復期機能 外科： 1 人／同上 小児科：0.7 人／急性期の機能
看護職員数	27.9 人	27.9 人

※長期的視点においては、総合診療体制確保についての課題を要する。